

緑化だより

No.161 令和 2年 6月号



クマノミズキ

- 季節の花(テイカカズラ)
- 昆虫の話(梅雨の怪獣・マイマイカブリ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(7))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

6月の休園日は月曜日です

ryokka 緑化センター

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

テイカカズラ

「石(いは)つなの またをち返へり あおによし 奈良の都を またも見むかも」

作者不明 万葉集 巻6-1046

これを訳しますと

(岩に巻いたツタが生え広がって元の場所に戻ってくるように、また年が若くなって、奈良の都が繁栄し、元のきらびやかな姿をもう一度見ることができるだろうか)

天平12年(740年)、聖武天皇の頃に平城京(奈良)を離れて恭仁京(京都)に遷都しました。そのため奈良の都が荒廃してゆくのを嘆き、詠んだ歌です。

テイカカズラの古名は「イワツタ(石綱)」「イワツナ」「マサキノカズラ」と呼ばれています。

伝説によると、藤原定家は式子(しょくし)内親王(後白河上皇の第三皇女)に歌の指南をしているうち、しだいに恋に落ちましたが、その恋は成就せず、彼女の死後も定家の情念がツタとなり、その墓にからみついていた。その寺の前で雨宿りをしていた旅の僧侶の前に、女の亡霊があらわれ、ツタが墓に巻き付いて苦しくて成仏できないので読経してほしいと願いました。以来そのツタは[定家葛]と呼ばれるようになりました。謡曲「定家」に由来します。

テイカカズラはキョウチクトウ科の木本性の常緑つる植物で、本州、四国、九州、朝鮮半島南部に自生しています。フジのつるのように巻きつくことはなく、茎から気根を出して樹幹や岩壁をよじ登ります。

5~6月にねじれた花弁の白い花がたくさん咲き、しだいに淡い黄色に変化していきます。花はジャスミンのような甘い香りがします。果実は10月頃、長さ約15cmの袋果2個が対になってつき、成熟すると、白い毛のついた種子は風にのって飛んでいきます。



テイカカズラの花

テイカカズラの芳香のある白い花は盆栽や壁面緑化としても使われています。葉に白やピンクの美しい斑が入った園芸品種のハツユキカズラは寄せ植えの材料として人気があります。同属のタイワンテイカカズラでは葉や枝を漢方薬として解熱剤、滋養強剤として利用されることがありますが有毒です。(上村)

昆虫の話

梅雨の怪獣・マイマイカブリ

梅雨、雨が続くとあちこちでカタツムリを見かけるようになります。同時に、カタツムリを食べる生物も活発に活動するようになります。その代表といえる昆虫がマイマイカブリです。名前は広く知られる一方、野外で実物を見たことが有る人は意外と少ないかもしれません。

マイマイカブリは世界最大級のオサムシで、日本の固有種です。脚と体が細長いスマートな姿で、広島で見られるものは艶消しの黒色をしています。一方、北日本のマイマイカブリは胸の部分が鮮やかな青や緑をしています。マイマイカブリを含むオサムシの仲間は北へ行くほど色彩が派手になることが知られており、他の昆虫とは対照的です。さらに特徴的なのはその卵の

大きさで、長径 1 cm と昆虫の中でも最大級です。幼虫は生まれた時点で 2 cm 近くあり、カタツムリを 2~3 個食べると 2 令幼虫からいきなり蛹になります。なんと孵化から 1 か月という速さで成虫になるのです。成虫になっても、後翅が退化しているため飛ぶことができません。かわりに長い脚で地上を徘徊し、他の昆虫やミミズ、そして何といってもカタツムリを捕食します。その長い首をカタツムリの殻に突っ込んで中身を食べる姿が、まるでカタツムリ(マイマイ)をかぶっているようだというので、マイマイカブリという名が付けました。もっとも必ずしもカタツムリをかぶるわけではなく、頑丈な顎で殻を砕いて中身を食べてしまうこともあります。



マイマイカブリ

緑化センターや森林公園の周りでは梅雨の時期、登山道や道路を徘徊するマイマイカブリを見かけることがあります。でも捕まえる時は御用心。危険を感じると尻から強力な酸を発射します。これは臭いに加え刺激性が強く、目に入ると大変危険です。もし山で遭遇する機会があったら、気を付けて観察してみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

小さな世界こけ

コケが観察できる場所(7)

第 4 駐車場を出て、車道を少し上がっていくと、しゃくなげロードに入ります。この付近は南から北に向かう谷筋で、周りは樹木に囲まれているためコケに適した環境になっています。

このエリアではセン類約 10 種類、タイ類約 10 種類、ツノゴケ類 1 種類と 20 種類以上のコケが見られます。

今回はその中から次の 2 種類を紹介します。

左手の溪流に下りてみましょう。

水しぶきがかかる岩に、張り付いているアナンシツノゴケ(ツノゴケ類)が見られます。ケゼニゴケに似て、どちらも水辺を好み、黒っぽい緑色をした幅約 1 cm の葉状体です。孢子体がなければ区別が付きにくいかもしれません。長さ 2 cm くらいの細長い円柱状の孢子体をつけます。前回紹介したニワツノゴケなど他のツノゴケと違い、孢子体の壁には気孔がないことから「穴なし」ツノゴケとつけられました。



アナンシツノゴケ

平成 30 年 10 月号でも紹介したムチゴケ(タイ類)は、溪流を渡った薄暗い斜面にマットを作っています。

ほかにも、レストハウスから薬草園へ抜ける遊歩道の湿り気のある岩でも見られます。植物体は途中から二又に分岐します。幅約 2 mm、長さ約 3 mm の葉は交互につき、葉先は 3 裂しています。茎から垂れ下がる鞭枝をムチに見立てたのが名前の由来です。(山根)



ムチゴケ

研修会のご案内

- 6月 3日(水) 『松の手入れ(春)
～緑摘みや春の手入れを学ぼう～』
室内で基本を学び、屋外で実技指導を行います
※ 要予約 (先着 10名)、無料、剪定バサミ、手ノコ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師 :NPO 法人「樹木医ひろしま」
工藤 徹
- 6月 10日(水) 『常緑樹の剪定講座
～春の手入れを学ぼう～』
室内で基本を学び、屋外で実技指導を行います
※ 要予約 (先着 10名)、無料、剪定バサミ、手ノコ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師 :NPO 法人「樹木医ひろしま」
工藤 徹
- 6月 14日(日) 『6月の自然探勝
～梅雨の植物を観察しよう～』
散策路を歩きながら植物を観察します
※ 自由参加、無料
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師 :環境カウンセラー
和田 秀次
- 6月 19日(金) 『葉っぱで樹木を見分けよう
～入門編～』
実物の枝や葉っぱで見分け方を学びます
※ 自由参加、無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師 :森林植物研究者
埜田 宏
- 6月 28日(日) 『梅雨のきのこ入門観察会』
講師と一緒に散策しながら発生しているきのこの説明を聞きます
※ 要予約 (先着 10名)、無料、
講師 :きのこアドバイザー
川上 嘉章

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、
参加者はマスク着用、密集・密接を避けるようご注意ください。
又、予約制の研修会については人数を10名までとさせていただきます。

☆お知らせ・ご案内☆♪



施設利用再開のお知らせ

令和2年5月30日(土)より、以下施設等の利用を再開します。

- ・ わんこひろば 制限解除
- ・ グラウンドゴルフ 制限解除
- ・ こどもひろば, 室内遊具
- ・ 卓球利用 ※1台のみ
- ・ 学習展示館 (展示室, 学習室)
- ・ 屋外での団体利用受付

展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)
・陶芸作品展(陶友会)

～ 7月10日(木)



陶芸作品展より